

アフターコロナを考える・・・災い転じて福と為す

篠崎 辰夫

先日、元会社同僚の奥様が執筆したエッセイを読ませてもらった。自らの霊的体験や進化のあゆみを綴ったもので、パワーストーンから始まり、パワースポット巡りや専門書を買っての学習、そして多岐にわたる制作物など、まさに神憑りのようで「凄い」の一言。不思議なパワーを感じた。

その中に、「斎藤一人」さんに関する記述があり、ちょっと興味があったのでネットで調べてみた。漢方をベースとした健康食品などの会社を創業、一時納税額日本一の実業家で、経営ノウハウや実利的なもの、霊的なもの、人生観などの著書やCD、講演が人気で多くの信奉者がいる有名人らしい。その斎藤一人さんが新型コロナについてYouTubeに次のようなメッセージを送っている。

『今まで地球レベルで二酸化炭素を減らすことが出来なかったが、これで一気に減る。それも世界同時。異常気象が減るという推測もある。地球の浄化作用かも知れない。こう考えてみると、現状は世界規模で大変だけれど、このことから、これからいいことしか生まれないだろう・・・』

なるほど、コロナの対応で二酸化炭素は減り、異常気象も少なくなって災害で苦しむ人達が減るかも知れない。そして浄化作用が働いて美しい世の中がくるかも知れない。そのように考えると「災い転じて福と為す」、明るい未来が待っている。

我々の日常生活もこれから大きく変わるだろう。まず、なかなか進まなかった働き方改革が、コロナをきっかけに加速される。テレワークの定着、週休3日制、都会のオフィスの削減、地方への移住による地方創生の新たな動き等々。賢い企業は、ピンチをビッグチャンスととらえ、すでに大改革に動き出している。キャッシュレス化、IT化も加速するだろう。医療現場もリモート医療が増えていく。そしてコロナ対応の新商品の開発、新しいビジネスがどんどん生まれている。先日もテレビでやっていたが、水道いらずの「シャワー」「どこでも手洗い器」「人間全身洗浄機」や「アシストフック」などキレイグッズが目白押し。ここでも「災い転じて福と為す」、新しい暮らしが待っている。

一方で、政治の世界ではもう解散総選挙の風が吹いている。こんな時にありえないだろうと誰しも考えるが、コロナで国民が苦しんでいても、選挙に勝って自分たちがより長く権力の座に居続けたいということのようだ。このような人たちに、この国のかじ取りをまかせていていいのだろうか。ここでは「災い転じて福は来ない」。自分の国さえ良ければ、自分さえ良ければ・・・という考えが、新型コロナの感染を世界規模で拡大させているような気がしてならない。

コロナを恐れ恐怖に震えながら終わるも人生、たった一度の人生ならば、前向きに明るい未来を夢見て生きたいと思う。冒頭のエッセイを読んで、そんな元気、パワーをもらったような気がする。まだまだ人生これからだ。

なお、冒頭に取り上げた奥様の制作物の数々は、菱の実会ホームページの「趣味倶楽部」のコーナーに掲載しています。
(2020/07/20)